

必修の国語授業について

2009年度版

配布日 月 田 曜

ルール・連絡

教室移動は必ずせやく。始業のチャイム以前に着席。

(1)出欠を取る際に、既にこなされた欠席、欠課、遅刻。

(2)遅れた場合せ、自分で理由と共に母つ手のじよ。母つ出でない場合せ、欠席しな。

座席表通りに着席するじよ。

(3)就座者を欠席扱いする。勝手に座を代わらぬ。

いな。

授業で毎時間用意するものせ、教科書・A4ファイル・原稿用紙ノート・筆記用具（黒ぐン・赤べん必數）**国語辞典**・10分読書の本。

(4)国語を外語かぬ上で、言葉の意味を確認す

る。

（5）語がある場合せすぐり調べられゆるよつは用意をしておれ。

(5)授業前に用意しておくじよ。既ねた場合せ、忘れ物回数に数えられる。

配布プリントを閉じるA4ファイルを席に準備するじよ。

(6)じれから、たくせんハコホトを配るのじ、それをなくせないよつに保管するファイルが必要です。ファイルすぬじと自分で自分の学習の積み重ね（知識の集積）じなる。

(7)定期的にチェックをして評価をわる。

(8)整理の仕方は卓上じよじよおも、その運用内でのハコホト番号順とす。〔配った田村順、ハコホト順にならないこと〕もあるので注意するじよ。後日指導しあわ。〕

(9)B4プリントの折り方は、半分に折りてせりに4分の1に折る。指定通りでない場合せ再提出となつあ。〔末ページに図解あつ〕

(10)配布プリントせ、無くした場合、**再配布しません**。（就皿「Pマーをあわ。）

(11)欠席、公欠などの場合せ、次に出席した時に渡すので忘れずに**自分で取りに来る**じよ。

ど。また、教務室に取りに来るじよ。ただし、明らかに来るのが遅いとハコホトが無くなつていて渡せなくなる場合せがあつあ。原稿用紙ノートが必要です。

(12)金で使い切つたらい同じものを各自購入す

年 組 番 名前

ねか、土曜から購入するじよ。(120円)

(13)押付ハーネス以外の課題提出は評価しません。

課題せ必ず指示された形式で作業を行ひじよ。

(14)語をよく聞いて、このように作業をされせここのか考へるじよ。

(15)課題の説明で話したじよと回じ事は質問されても知えない。聞も逃した場合せ周りの人に聞くじよ。

(16)文書の形、濃や、表現の内容じよつに伝わつしよい場合せ再提出しな。

小テストを適宜行ひ。

授業とは集団で行われる学習行為である。この中に隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考へるじよ。

(17)始業・終業の礼は厳肅なものである。

(18)就皿授業中に話していい時と話してはいけない時を判断するじよ(就皿を読むじよ)。

(19)私語・昼眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

(20)飲食・内職せ完全に学習不参加である。

(21)この時間に教室に入つていても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまじません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだけなら、何でもよいじます。

片桐は基本的に**教務室**にいるわ。

以上のじよで不都合がある場合、会議の上改訂

でもある。

皆さんの表現作品をweb上で公開するじよがあります。そのときにはハイバナーに配慮して掲載しますのじよに承ぐださ。

種類の種類

「個人課題」……個人じよと合格を目標す。

「グループ課題」……グループで一つ、またはグループ全員が提出して、グループじよとに合格を目標す。

「クラス課題」……クラス全員が提出し、クラス全員が合格するじよにより評価が得られる。

因縁と因縁

学校教育の目的……「人格の完成」
国語教育の目標……「日本語の機能を理解し、日本語を適切に使えるようにする。日本言語文化の伝承をする。」

自己の中にある専門性（専門教科知識・個性・こだわりなど）は共通言語を使うことにより、一般化し、他者とのつながりを持つことができる。

「学ぶ」ということは、自分の身の回りから吸収することです。

「勉強する」ということは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということです。

国語は「ことばを学習する教科です。

ことばの機能人間が自己や他者、外界物を認識するために必要に迫られて作られたもの。

自己と他者の境界線の一部を取り除き、互いに情報を伝達し、理解できるようにする手段。

強化目標

伝わる作文
はつきり正確に声を出す
テキストにあたる

立派な社会人になるために

期待を上回る

責任を持つ
誰に・いつ・何を・どのように聞けばいいのか会得する

期待を上回る「ことば」

「不思議な謎かけ」島田亨

人生の転機に背中を押してくれる友がいると心強い
2004年秋、新球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」の経営に加わってほしいと誘われたとき、「いよいよエンターテインメント産業に進出ですね」と、挑戦を進めてくれたのがレックスホールディングスの西山知義会長だった。
年齢が近く、ゴルフや食事に行ったりする間柄、東京都内の焼鳥屋で一杯やりながらの相談だった。その席で不思議な謎かけをされた。どこの店で食事をしたりするとき、期待値つてあるんじゃないですか。期待通りならお客さんは満足するでしょうが、それ以上のサービスを受けたらどうなると思います？」

日本経済新聞2008.3.22「交遊抄欄」

先輩の「学んだ」と作文 参照

「誰にいつ向を どのよひに運ばれどこのか会得する」
後日説明

授業や箇条の心得

名前を呼ばれたら三秒以内に返事をする。（0.2秒を推奨）

授業開始・終了のあいさつは頭を上げ、寄りかかるずに立つてからおこなつ。持ち物には黒ペンで名前を明記する。提出課題におけるノート・プリントへの記入は黒のにじまないペンを使う。課題を書く上で字を間違った場合はホワイトを使つたり、一重線で訂正し、書き直す。ノートにおける新たな課題は、日付、名前を右端に記入し、新しいページから書き出す。

評価方法

いわゆる「平常点」がノート・プリント課題のハンコの数、小テストの点数、授業不参加回数で決定していきます。定期考査のペーパーテストは1単位時間50分かけて今までの学習の成果を紙に書きだせるかどうかを測定するのですが、「平常点」は毎時間の学習の成果を蓄積していくものです。

よつて、どちらも重要なものです。ペーパーテストと平常点を同程度と見なして各学期、学年末の成績を付けていきます。
また、定期テストの問題を事前に課題として出題し、その結果をテストの点に組み入れる場合もあります。

私が答えると、「感動するんだね」と教えてくれた。続けて、「期待値をもつと上回る」とどうなると思います」と笑みを浮かべながら尋ねてきた。頭をひねつてると、「感謝されるんですよ」。そして「期待を下回ると不満なのは当然ですが、さらに下回ると、お客様にとっても、お店にとっても悲劇です」と諭してくれた。

エンターテインメントの本質とは「れなんだと気づかされた。プロ野球もエンターテインメント産業。そのときに教えられた「感動」は、球団経営のキーワードになっている。(しまだ・とある= 楽天野球団オーナー)

先輩の「学んだこと作文」

一つ目は現代文の授業で名前を呼ばれた人が黒板の前で自分が考えた三つのことを話すということがありました。全員が合格しないと何度もやり直すというスピーチがありました。自分の考えを人に伝えるというのは恥ずかしいですが、多くの人の前に立ちスピーチをすればそれがいい経験になります、授業以外で多くの人の前に出て何かを話すときにも授業で多くの人の前にスピーチをしましたからという経験があるので初めての時よりは緊張もしないし上手にスピーチができます。

二つ目に役に立つことは、テストが始まる前にクラス全員がノート提出という課題が出されました。ノート提出の期限が近づいてくると合格者がだんだん出てきて合格した人はまだ合格している人にアドバイスができるのでクラスの中に協力性が出てきて積極的に不合格の人とのところへ行き、教えてあげていたりクラスの人を気にかけている人がだんだんきてクラスが一つになつた感じがしました。初めの頃はみんなが今よりも声を掛け合ったり、心配し合つたりしていなかつたけれども、目に見える形でクラスが一つになつていいことはとても嬉しかったし、片桐先生がクラスで何かをする課題をたくさん出してきたおかげでクラスがとても良くなりました。

三つ目に役に立つことは、小学生の作文を読んだことです。今の小学生がどのような考え方や気持ちをしているのかを身近に感じることができました。高校生になると教科書以外に小学生の作文を見る機会がないけれど片桐先生の授業では他の学校ではしない授業をして驚くことがとても多くありました。

四つ目は、人はひとりで生きていけないということです。クラスで協力してわかつたけれどもうしても一人ではできないことが出てきたときは人の助けが必要だったのでとても人と人の助け合いました。

自分は国語の授業で、一人では何もできないということを学んだ。片桐先生の授業では、クラス全員で合格しないと不合格になるという課題や、グループ全員で合格しなければならない課題を出す場合がある。それは決して一人ではできない。近くの人からヒントを聞いたり、答えを知っている人から教えてもらったりすることで全員が合格できる。つまり、「情報の共有化」が必要なのだ。

「情報の共有化」をしないと、一時間ばかり過ごすことがあります。答えを間違えていてクラス全員の人や、グループの人に迷惑をかけてしまう。しかも、「情報の共有化」は非常に便利だ。その問題の答えがわかるだけではなく、周りの人とのコミュニケーションになるのだ。普段、全く話さない

人とも、それがきっかけで話すことができたり、協力して課題を解くことで非常に中の良い友だになれることがある。これは社会に出ても同じだ。会社の同僚や先輩にわからないところをく機会は必ずある。その時に、この一年間でやつて来た「情報の共有化」をおこなえば、難しい問題もすぐに解決する。

だが、自分はこれをなかなかすることができます。だから、何回も読んでいかないと著者の意見や、その文の本当の意味も理解できないとすることを学んだ。自分はただ単に教科書の文をむだけで、著者の意見、書かれていることだけではない、著者がこの分で本当に伝えようとしているものを全く読み取ろうとはしなかった。だが、片桐先生の説明を受けてから、注意深く読むといろんな著者の意見を読み取ることができた。このことから、別の観点から着目してみると、いう生きる上で役に立つことを学ぶことができた。

一点目の提出期限について説明する。高校卒業したら就職をする。就職をしたら提出期限をしつかり守らなければ会社に迷惑になる。会社に入つてから、提出期限を守ると決めて、高校提出期限を守ることができなかつたら、会社でも長続きはしない。片桐先生は、社会の大変さを分たちに少しでもわかつて欲しいから、厳しく提出期限を守らないと、赤点にしたり表にして、誰が出期限を守らないと、がやつていなかつた生徒達にもわからせている。

二点目の暗唱について説明する。暗唱は自分頭で覚え、それを声に出してするから、生きる上で、先生から教えてもらつたことを、頭に入れ、声に出すことはかけられたときに、しつかり声を出せるようにしている。暗唱のテストでは、はつきりと読まなかつたり、小さい声を出すと、注意が高まつたのは高校一年生の時である。最初は何が違つていてるのかわからぬ字があつた。その中で自分も同じ間違いをしていることがわかつた。社会に出たら、漢字を間違つことは恥ずかしいから、言語樓は毎日毎日大変だったけれど、必要な授業だつた。

四点目の片桐授業について説明する。片桐先生は他の先生と違つて立派な点がいくつかある。その先生は、テストの時以外チャイムが鳴つて三五分遅れてくる先生ばかりだ。でも片桐先生は、普通にして入つてきて、うるさいつて言うの。遅れてどうかと思う。学校の先生だから、許せるかもしないけれど、企業では許せる問題ではない。生徒だからといふ気持ちがあるからである。遅れてどうかと思う。注意するなら、自分がチャイム

ムと一緒に授業を始められるようになるのが先生としての役割である。

五点目の読書について説明する。10分間読書は自分の好きな本を読めるので、読む本をしっかりと選び、しっかりと読むことが大切だ。漢字もたくさん出てくるし、メリットがたくさんある。三年間国語総合から現代文までお世話くださり、今まで本当にありがとうございました。

一点目は字をきれいに書くことだ。今までは、自分がわからぬといふと思つていたし、提出物も、とりあえず出せば良かつた。だが自分がわかつても、読む人に伝わらなければ何の意味もないとうことに気づいた。

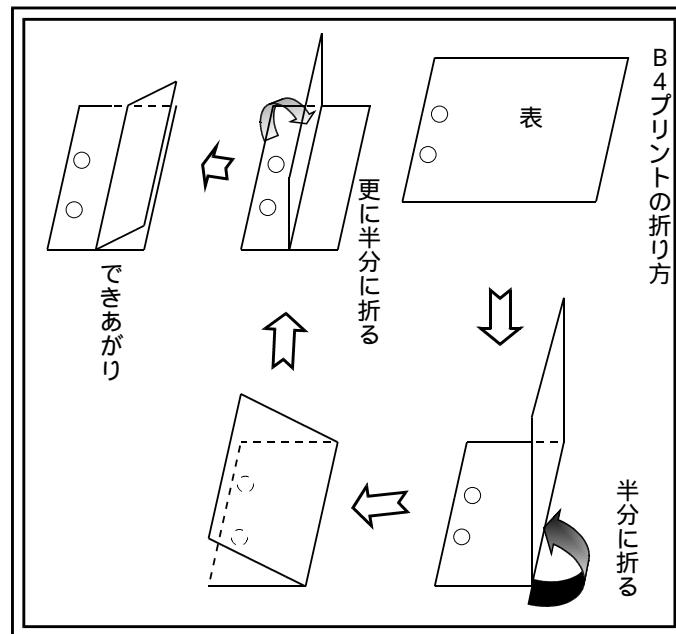
二点目は、漢字を使うということだ。どんなに字をきれいに書いても、平仮名ばかりではとても読みづらいし、社会に出たときに漢字が書けないようでは、まわりから浮いてしまうし、恥ずかしい思いをしてしまう。字をきれいに書き、漢字を使うことが大事なことだ。

三点目は、まわりの人迷惑をかけないことだ。先生の授業には、クラス全員が成功して、何点かもらえる課題や、グループ全員が成功しなければいけない課題がある。その時にまわりの人がやる気を出して頑張つても、一人でも、出さない人がいたら、それだけで失敗になつてしまつ。最初は「なんか厳しいルールだな」、「あいつとは関係ないから、俺だけ点数をもらえばいい」と思つていたが、それは間違つてゐるし、社会に出れば全部連帯責任なんだから、今、しっかりとやつておかなければいけないことだ。人の責任をとれるようになつてしまつて、一人前になる。その前に人に迷惑をかけないようにしておかなければいけない。

四点目は、問題をしっかりと読むということだ。テストの時に問題をあまり読まず、できる問題を間違つてしまつことがある。「これは、学校だから、何とかなつてゐるが、会社でこんなことになつてしまえば大変なことになつてしまつ。重要な書類を読むときにはミスをしてしまつて、文章を読んでから始めることが大切だ。

五点目は、再提出だ。自分はよく再提出になつてしまい、それで出すのをやめてしまつたが、先生の授業ではその悪いところもなおすことができた。

常用漢字の練習についてです。僕は小さい頃から全く漢字を勉強してきませんでした。漢字練習もだらだらただノートに書くだけでした。しかし現代文の授業で常用漢字を書くようになり少しずつではあります、が漢字を書くようになりました。他のノートにも漢字が多くなってきたのもよく分かることになりました。漢字の話にも関係するのですが、現代文の授業の始めの「読書」もそ



うです。漢字が嫌いなので本も難しい漢字が出るとその場面の感じから読み取つたり、読むのを止めてします。しかし漢字を練習してから本をスムーズに読めるようになりました。しかも、本は漢字だけでなく「文章を読み取る力」も備わっています。今までマンガ本しか読んだことのない僕が、本を楽しく読もうというのは「生きるの上での役にたつ」ことです。

今度は文章を読み取る力がつくと文章を「書く力」も付いてきます。本を読み、ある程度の構造が分かるとあとは基本的なことが分かれば作文が書けるようになります。まだ完全とは行きませんが少しずつ僕の文章力は上がっています。

文章が書けるようになると今度は人に見せて分かるようにしないといけません。作文なのでやはり人に見せなくてはならないと思っています。そこでは本で現代文ならではの「ボールペン」です。僕はボールペンが苦手であまり使つたことがあります。字はすぐに消せないし大変だからです。でも将来どこかの会社と何かするときは全てボールペンでやるので、今のうちにボールペンで書くといふことはとても大事なことです。そうすると自然にきれいな字で書くという意識が出てきて、相手にも分かりやすく、自分も分かりやすい文章がでかけるようになります。僕は今この作文を書いていて全て繋がつてゐるのだと思いました。漢字を練習して書けるようになつたら本を読み、本を読んだら文章を書いて、文章を書いたら文章をさらに読みやすいようにする。この一つ一つが僕にとってとても大事なものだと思っています。それが一つが欠けてもダメ、この作文に書いた文章だ文章が僕にとって生きる上で役にたつ」ことを思つています。